



hina no marebito のまねびと

「吉岐を愛する心、熱血さに負けた」と思ったから書きました」と答え、今度は「平山女将は吉岐のパワースポットだ」と大書した。

元テニスプレーヤーの松岡修造はフジテレビ「松岡修造の食いしん坊! 万才」で2度も長崎県吉岐島を訪れた。1度目、負けず嫌いの松岡が「女将の熱血さに負けた」と色紙に書いた。3年後の「同スペシャル」で宏美が「何の熱血?」と尋ねると、「あの時、女将は『吉岐はすごいのです。歴史も文化もあって。食事は美味しいし食材も豊富。良質の温泉もある。人情味豊か。もう最高!』と、僕に一言もしゃべらせなかった。しかも平山旅館を宣伝するならまだしも、吉岐に終始した。その

吉岐のパワースポット

平山旅館女将 平山宏美さん (72)



福岡県田川出身の宏美は美容師資格取得後、OLに憧れ上京、渋谷で平山敏一郎と出会って結婚。平山旅館は昭和10年代に医師だった敏一郎の祖父・末継が三男で家を継いだ長利のため神功皇后が応神天皇を産湯に浸けたと言われる旧湯の温泉権を購入、長利の妻・泰が温泉旅館を始めた。敏一郎は長兄が医師、次兄も獣医師で自分が旅館を継ごうと調理師専門学校へ。その間、宏美は長男を連れ吉岐に渡る。天下一柔和な義母と肌に優しい温泉、美味な料理のもと4男に恵まれた。

宏美は「故郷を愛する青少年を育てたい」との思いから元保育士の入江淑子と「民話劇団」を創設、長崎・福岡・大分で公演し子供達を引率。また、「島の子供達に生の音楽を聴かせ演劇を見せたい」と「島よせコンサート」実行委を組織し、出資者100人を集め、森繁久彌、加藤登紀子、ダークダックスなど著名人を吉岐に招聘。28年56回続けた。現在、元劇団員の多くが島へ戻り活躍している。平成26年「ディスプレイ農山漁村(むら)の宝」で宏美が代表を務める「島のめぐみ観光園」が全国23の優良事例に選ばれ、首相官邸で首相の安倍晋三と2ショット。福岡での受賞祝には福岡県知事(当時)の麻生渡が「私には孫が7人いる。みんな平山旅館のファン」の祝辞を皮切りにJR九州相談役(当時)石原進、久留米大名基督教の薬師寺道明、九電工相談役(当時)橋田紘一らが駆けつけ人脈の広さが桁違い。「地域企業連合会九州連携機構代表の小早川明德さんが平山旅館を気に入り福岡で宣伝してくれたから。会った瞬間、誰とも仲良くなれる宏美の真骨頂。三代目も三男で料理の腕が確かな周太朗。「若女将の真希子は外資系企業で広報担当、みなかみ町観光協会時代に観光庁から表彰された。すごく優秀よ」。平山旅館は今後もパワースポットであり続けるようだ。(文中敬称略)